群馬イノベーションアワード パートナー トップ座談会1

新時代／第二創業

閉塞感を打ち破れ

少子高齢化、人口減少が進む日本。そんな閉塞感を打ち破るような起業家を発掘するプロジェクト「群馬イノベーションアワード（GIA）2017」を支えるパートナー企業経営者らが、次なる一手などのテーマについて座談会形式で意見を交わした。その様子を毎週1回（原則火曜日掲載）の5回シリーズで紹介する。

出席者

ジンズ	田中仁社長
アサヒ商会	広瀬一成社長
こもれび	小井土匡彦社長
富士スバル	斎藤郁雄会長兼CEO
メモリード	吉田卓史社長

座談会に参加した（前列左から）大熊さん、深沢さん、田中さん、山﨑さん、中村さん（後列左から）渡辺さん、広瀬さん、小井土さん、斎藤さん、吉田さん　＝ジンズ東京本社

出席者

オルビス	大熊章之社長
国際警備	山﨑健社長
シムックス	深沢利弘社長
ソウワ・ディライト	渡辺辰吾社長
前橋園芸	中村敬太郎社長

新時代　次なる一手

新たなサービス模索

田中　将来的には眼鏡販売の利益で稼ぐだけではなく、販売以外でどういうサービスを提供したらお客さまが喜んで対価を払っていただけるかが今後の課題。そのサービスを模索している。極論になるが、眼鏡を売らなくても商売が成り立つようなビジネスに転換できるのか、など次の一手を模索している。

たなか・ひとし　1963年、前橋市生まれ。88年にジェイアイエヌを設立、眼鏡事業に進出し、「JINS」ブランドの新商品が次々にヒット。14年、起業支援・地域振興を目的に田中仁財団を設立。

第二創業　飛躍への工夫

イメージアップで再建

渡辺　5年前の社長就任時、先代からのメッセージは、自由にやっていい、会社存続だけ考えてということ。人手不足の建設業界にあって人材確保のため進めたのは会社のブランディングとビジョンの明確化だった。打ち出した理念は「デンキのミライにワクワクする」。電気工事に軸足を置きつつ、付随的にさまざまな価値や喜びをお客さまに提供していく。また社会のニーズや課題にどう対応するかを常に考える。そんな姿勢を重視し、認知される企業づくり、さらには人材が集まり、それを育てられる環境づくりを進めている。

中村　社長を引き継いだ8年前、リーマンショックの影響もあり、業界全体が右肩下がりの中、新分野を切り開く必要があった。まずは街並み全体を含めたデザイン性を提案していくスタイルを追求。さらに海外に目を向け、必要とされる場所で自分たちの技術を生かす方法を探ってきた。その結果、県内の複数の同業者と連携し、中国に進出することが決まった。中国は日本とは桁違いの規模感があり、長期的に見れば莫大な金額になる仕事が見込まれる。

山﨑　27歳で会社に入って、約10年、警備員や警備機器の配線工として現場で働いた。その経験を基に、いかに社員にやりがいを感じてもらい、モチベーションを保てるかを考えている。24時間365日、夜間の業務も多い仕事だけに、これが最大のテーマだ。企業案内を工夫したり、イベントにかかわって地域を応援するなどイメージアップに努める一方、会社の顔となる社長の人脈作りも精力的に進めている。最近は障害のある子どもを放課後預かる異分野事業にも乗り出した。

深沢　2011年、30歳で社長に就任した際、今の半分だった経営規模を拡張するのか、縮小してでも身の丈に合った形で行くのか、方向性を探った。その結果、拡張を選択し、どこでも通用するように業務レベルの向上を掲げた。まずトップダウンからボトムアップへの切り替えや、役員の若返りを進め、若手が伸び伸びと意見を言える環境づくりを進めた。制服のデザインも若手の選定委員会に委ね、斬新なピンクになったことがその象徴だ。警備全般を手掛けているが、有害鳥獣の駆除など新分野の開拓も積極的に取り組んでいる。

大熊　私の場合、社長就任時よりむしろ37年前、19歳の時に転機が訪れた。会社が億単位の多額の借金を抱え倒産しかけた時だ。母親に泣かれ、洋服屋になる夢を捨て会社に入った。がむしゃらに働き、20年かかって借金を返した。経営改善に役立ったのは肉卸だけでなく飲食業に飛び込んだ選択と、衛生管理の徹底、しゃれたロゴにするなどイメージアップの取り組みだ。特殊な肉を豊富にそろえたのも差別化につながった。バッファローやトド、北極のウシ、はやる前のアグー豚など多い時は1千アイテムあった。

渡辺　人材の獲得、育成に絞って工夫している点を話したい。ここ数年、合同企業説明会での人気上昇が顕著で、数年前と隔世の感がある。ソフト、ハードの両面から学生目線で会社を変化させているからだと思う。導入しているワークライフクロスの考え方で働き方改革を進めるなど生産性向上策も大きいようだ。

中村　うちは新しく物を創造する仕事と管理する仕事に二分される。いろんなことを自分なりに作り上げる人と言われたことを滞りなくやる人が必要で、採用も分けて考えている。いずれも大事な仕事だが、ポイントにしているのは、この会社に入りたいと思って入らないと続かないので、その情熱を重視している。

山﨑　警備をやりたいと言って入って来る人は少ないので、ご縁があってうちを選んだ社員には長く勤めたくなるような環境づくりを心掛けている。顧客の生命や財産を守る仕事に誇りを持ってもらうほか、社長との距離を縮めるため、全員に社長の携帯番号をオープンにしている。仕事の話よりも恋愛や結婚の相談が多く、うまくコミュニケーションできている。

深沢　警備業界は日本人が多いが、最近は留学生など外国人にも目を向けている。高い離職率を少しでも改善しようと、新卒3年目まで手厚く面倒を見たり、研修も充実させている。現場のトラブルや悩みを少しでも解消できればと、社員相談窓口を設けている。

大熊　いわば「3K」の代表的な職場で、募集をかけてもなかなか集まらない業界だが、食肉企業でなく、食品企業となると結構集まってくる。人材教育については年に1度の定期的な1対1の面接をやるようにしている。これによって上下関係やチームワークが良くなった。

田中　実験と言えば、自らの体や精神の状態を把握できる3点式センサーを搭載した眼鏡「MEME（ミーム）」を使っている人のデータを集めたら、面白い結果が出た。何と日中のオフィスにいる時間が一番集中していない事実が分かった。特に月曜と金曜が集中できていない。そこで、東京本社29階に集中力を高めるための構造と光量を工夫したレンタルオフィス「ThinkLab（シンク・ラボ）」を12月1日に開設することにした。ここでいいアイデアが生まれ、働き方改革につながればいい。

小井土　介護とは対照的に、女性の方の健康で美しくありたいという気持ち、ニーズに応えようと、女性専用のホットヨガの経営を始めた。現在は高崎、前橋に出店。きれいになりたい、健康になりたいという願望は絶対になくならないと思うので、ホットヨガを通して群馬を明るく元気にしていきたい。

新たな需要掘り起こし

ひろせ・かずしげ　1976年、高崎市生まれ。航空貨物会社を経て、祖父が1948年に創業したアサヒ商会に2009年入社、3代目社長に就任。文具・OA機器、オフィス家具などを販売する。

群馬を明るく元気に

こいど・まさひこ　1963年、下仁田町生まれ。2009年に「こもれび」を創業。本県と埼玉県でサービス付き高齢者向け住宅やデイサービス、放課後等デイサービスなど26事業所を運営している。

ネットやSNSで変化

さいとう・いくお　1967年、前橋市生まれ。95年、富士オート入社。2003年にグループ会社のユーロブレッツア代表取締役社長、15年から富士スバル代表取締役会長兼CEO。

健康寿命延ばすのに力

よしだ・たかし　1971年、長崎市生まれ。97年、冠婚葬祭業のメモリードに入社。常務、専務、副社長を歴任し、2014年から現職。関連企業の代表も務める。趣味はトライアスロン。

経営規模拡張を選択

ふかさわ・としひろ　1981年、伊勢崎市生まれ。大学卒業後、2005年にシムックス入社。11年から現職。警備業、ビル管理、人材派遣を手掛ける。近年は鳥獣被害対策事業にも進出。

新分野開拓へ中国進出

なかむら・けいたろう　1971年、前橋市生まれ。造園・外構工事会社勤務を経て、2003年に家業の前橋園芸入社。10年から現職。公共工事や造園工事をはじめ貸植木、生花販売も手掛ける。

やりがい感じる職場に

おおくま・のりゆき　1961年、旧榛名町（高崎市）生まれ。食肉学校卒。81年に食肉加工業の大一ミート入社。2000年に同社社長に就任。鳥一フーズと合併、オルビスに社名変更し、09年から現職。

やまざき・けん　1969年、東京都生まれ。大学院で危機管理を学び、修了後に米国留学して3年間危機管理を研究。97年、27歳の時に国際警備に入社し、12年から現職。「危機管理のプロ」を自認。

ビジョンを明確に

わたなべ・しんご　1976年、前橋市生まれ。広告代理店勤務を経て入社。12年に代表取締役就任。「デンキのミライにワクワクする」というビジョンを掲げ価値提供と地域共生のエコシステムを構築。

次回は31日の掲載予定。